
乗り遅れた理由

田中 喜三郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

乗り遅れた理由

【Nコード】

N1012N

【作者名】

田中 喜三郎

【あらすじ】

幸せだったと気付くのは、それをなくしたとき。
失恋の思い出。

「側にいるだけでいい。」よくそんなこと言っていた。夢に見た未来。それが過去に変わった。

「あなた、笑わなくなったわね。」

その言葉が未来を過去に変える始まりの合図だった。

「さようなら。」

よくある別れの言葉。まさか自分がそれを言われるなんて思っていなかった。

「もういい。おまえとは終わりだ。」

心とは裏腹に強がり言ってしまう自分がある。

「ずっと一緒にいたい。」心のなかではそう叫ぶ自分がある。

「後悔するなよ。」

相手に対して言ったのか。いや、自分に対してなのだろう。

たぶん君が明日死ぬと解ったらこんな心と裏腹なことなんて言わなかった。

あれから一ヶ月。いまだに後悔している。一週間前に君に男が出来たと友達から聞いた。心変わりが早いというよりも俺に対して愛想をつかしたのだろう。

「なんでなんだよ。」

誰も居ない部屋で天井に向かって呟く。体に力が入らないとまではいかないが、なにもやる気がでない。

「仕事に行こう。」

こういうときにはなぜか独り言が出てしまう。仕事に行けるだけの元気はあるようだ。そして、一度仕事に出てしまえばいつもの作りの表情と態度で仕事をこなしていくのだろう。

家を出てバス停まで向かう道。今日は日差しが思ったよりも強い。

ただ歩くだけでしつとりと汗が出てきた。バス停が見えてくる。一瞬足取りが止まった。そこには見覚えのある後ろ姿。君がそこにいた。その隣には彼がいる。あの笑顔は付き合い始めの頃は俺に向けてくれた表情だ。なんて楽しそうにしているのだろう。ほんの三年前はあれが俺のものだったわけだ。

俺はバス停を通りすぎた。君の笑い声、話し声を耳で聞き逃さないようにとしながら。そのとき、一瞬君が言葉を止めた。俺に気付いたのか。だが、すぐにまた彼と会話を始めた。

結局その日は仕事にならなかった。バスを一本遅らせたおかげで遅刻し、上司に怒られた。家につき朝と同じに布団の上で天井を見上げる。

「夢みたいだったな。」心のなかで言っていたはずなのに口から言葉が漏れ出す。

「もう恋なんてするもんか。」また口に出る。昔もこんな思いしている。顔がにやけてきた。

「こりない男だな。俺って」口は笑いながら、目から涙が落ちる。真横に流れる涙がなんだかくすぐつたい。「寝よう。」そうつぶやき俺は眠りにつく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1012n/>

乗り遅れた理由

2011年1月15日20時52分発行